

令和8年度 レイズホーム 地域連携推進会議議事録

日 令和8年5月14日
場所 レイズホーム2
時間 午前10時～11時15分

出席者 N自治会長、S組長、K包括支援委員、市障害福祉課O主査、隣組4名、利用者保護者代表2名、利用者代表、施設のI理事長、I施設長、O管理責任者 総計14名

1 開会の挨拶

理事長の挨拶の抜粋

自分が今この場で突然倒れた場合、遠くの親戚よりも近くの他人というように、いくら力があって思いが深い親戚がいても遠ければ無理だが、他人であっても、近くにいれば助けられる。それが、互いに助け合える関係ならば、毎日を豊かに安らかに暮らせて最高だが、世の中なかなかそうはいかない。



今回、皆が快く集まってくれた。大変ありがたい。しかし、これは、心ある方々だからできて、一方的な恩恵である。

今回、某組長さんから、ためになることを教わった。私が、世の中には何をやっているのか分からない施設もある。といったら、そうですよねえと。よそここは違うと言わんがばかりに、あいづちをうってくれた。でも本当はここもそうだと思っているでしょうと再度問いかけたら、にやっと笑われた。これこそが、社会の皆さんのいつわらざる思い。

実際、障害者の行動は奇異で、精神的にも肉体的にも、不完全なものがある。健常者と比べると、片足を引きずり、よろけながら歩くようなもので、いたるところに困難や難題を抱えていて、手助けを受けても、うまくは応えられず、相手の善意を活かしきれない。

しかし、接すると見えて来るものがある。もじもじして隠れたり、逃げ回ったり、奇声を発したり、ピョンピョン飛び跳ねていても、本当は、理解に苦しむ語り口で、声を出せぬ者は目で、体で感謝を伝えている。しかも、ずっと覚えていて、また会えることを信じてじっと待っている。一方的ではなく、できないながらも何かを返そうと必死にもがいている。決して恩知らずではない。相手に危害を加えようとしてのでもない。世の中にはせつかく恵まれた力があっても、その力を自分を利するためだけに、更には相手を貶め奪い取るために使う人もいて、そのような心の貧しさ、醜さとは無縁であり、どこまでも澄んだ清らかな思いを知らしめてくれる。

今回、見えない施設の中で、利用者等への虐待等が行われているのではないのか。また、施設の利用者は社会の皆さんに危害を加える危ない人なのではないのか。そのような疑問や不安の解消に繋がったら幸い。

そして、これをご縁に、触れ合いを深めて行きたい。とのこと。

2 スライドで施設の概要の説明

3 施設内見学

4 苦情、要望等、に応えさせてもらうための座談会

出席者からの意見、要望等の抜粋

- *施設の利用者の構成年齢を問う者あって、施設長が答える。
- *施設の利用者の一日の流れを問う者あって、管理責任者が答える。
- *施設の様子を知り得れば、大方の皆さんは安心できるとの出席者の弁あり。
- *高揚した人間に恐怖を感じるが、良い接し方はあるのかを問う者あって、理事長が、他害にいたる者、自傷に至る者、特性は様々だが、接した者が自分の思いを受け止めない敵であるのか。味方であるのか、本能で直感的に判断するので、味方になって鎮めるようにする。できなければ、とにかく関わらず、逃げるようにする以外に無い。との弁あり。
- *施設の前で利用者が固まって立っている姿が怖いとの意見があり、管理責任者より、朝の送迎車を待っている時の事なので、明日から、車の迎えが呼びに来るまでホームから出ないようにしていく。との解決策あり。
- *利用者の親より、外出時に、興味を示すと見つめてしまい、不審な行動をとがめられてしまうが、理解してくれと言っても、無理であり、障害者マークをかざすようにしている。との弁あり。
- *自治会長より、災害時に地域として、障害者をどのように受け入れるか、考えてくれるとのことだが、理事長が1名を除いて家族の見守り態勢が良く、速やかに家に連れ帰り面倒を見てくれ、残りの1名は施設職員で面倒を見るので心配無用と言い、よほどの事があった場合には相談させてもらう。との弁あり。
- *施設長より、状況が様々なので、気に掛かることがあったら、いつでも連絡して欲しい。そして、興味があれば機会を見て、日中活動の場の施設の方まで来て、見たり触れ合ったりして行って欲しい。との弁あり。

他には意見無く、安心できたとのこと。



記録 O.Y